

教科	総合的な学習の時間	単元名	「天王 EXPO をひらこう」
----	-----------	-----	-----------------

単元でつきたい力

(教科等でつきたい力)

- アジアの国々の人や文化との出会いを通して、異なる文化や生活習慣を多様性や豊かさとしてとらえる力。
- 調べた国について、分かったことや考えたことについて、分かりやすくまとめ、発信する力。

(学校図書館等の活用でつきたい力)

- ・図書資料やインターネットなどの資料を活用して、必要な情報を集める力。
- ・集めた情報の共通点や相違点について、観点を立てて多角的な視点で比較し、分析する力。
- ・伝えたいことを選び、伝える相手に応じて分かりやすい言葉でまとめる力。

本単元で育む学びスキルと学校図書

- ① - STEP 2 ACD
- ② - STEP 2 I

該当番号の詳細内容は「大阪府情報活用能力ステップシート」から確認できます。



単元における学習の展開 (全 13 時間) (学校図書館等を活用した時間に☆印)

第 1 次 (1 時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・単元のねらいと流れを把握する。 ・グループごとに調べる国を決める。
第 2 次 (5 時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・日本について、観点を立てて、X チャートに整理する。 ・世界の国 (韓国・インドネシア・フィリピン) の人と出会う。 ・図書資料やインターネットを活用して、その国の文化や生活などを調べる。☆ ・国立民族学博物館に行く。モンゴル体験を行う。
第 3 次 (2 時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・調べた内容を X チャートに整理する。 ・日本と外国の X チャートから、相違点や共通点を比較し、分析する。(国語「情報のとびら 観点を立ててくらべる」)
第 4 次 (4 時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・天王 EXPO (国紹介) を作成する。 ・天王 EXPO を開き、2 年生を招待する。 ・単元全体を振り返り、考えたことをまとめる。

本時のねらい

外国と日本の文化や生活について、共通点や相違点に着目して分け、外国の特徴について考える。

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	学校図書館活用及び言語能力の育成のためのポイント・指導上の留意点
導入 (5 分)	<p>1. 本時の学習課題を確認する。 これまで調べてきたことを振り返る。</p> <p>日本と日本以外のアジアの国を比べて、同じところや違いについて考えよう</p>	
展開 (35 分)	<p>2. X チャートに整理した日本と日本以外のアジアの国をベン図をつかって比べる。 食・住・子ども・スポーツ (遊び) など観点を立てて整理した X チャートから、ベン図を用いて共通点や相違点について比較する。</p> <p>3. 班で気づいたことや考えたことを交流する。 項目の数や内容に着目して、話し合う。</p> <p>4. クラス全体に発表する。 他の国の発表を聞き、さらに気づいたことや考えたことを発表する。</p>	<p>国語「情報のとびら 観点を立ててくらべる」の単元でつきたい力を生かして考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・項目ごとに色を分けて、比べたときに視覚的にとらえやすくする。 ・それぞれの国のよさに目をむけるように促す。
まとめ (5 分)	<p>5. 学習のふりかえりをする。 その国々によさがあり、その国に生きる人がつくり上げてきた文化や生活習慣があることに気付く。</p>	<p>文化や習慣の違いをお互いがよく知り、尊重し合うことが大切であることをおさえる。</p>

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

- ・X チャートやベン図など、思考ツールを情報の整理・分析の過程で活用したことで、たくさんある情報の中から情報を取捨選択する力がついたと感じる。
- ・観点を立てて整理する際に、もう一度本で確認する児童がいて、本がものすごく身近なものとなった。
- ・他の国と比較することで、それぞれの国の特色がわかり理解が深まった。子どもたち自身が和と洋が入り混じった少し理解することも必要だと感じた。
- ・アジアの国の人たちとの出会いや校外学習での体験が、その後の調べる意欲につながっていた。
- ・本やインターネットから必要な言葉(キーワード)を抜き出す力がついた。



アジアの国と日本の共通点や相違点を

思考ツールで整理して発表した。